

「農地農政相談を活用した最適化活動」

毎月10日は、農地農政相談の日。市内15か所で、農業委員と農地利用最適化推進委員が相談に応じる 〈福知山市農業委員会〉

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	20人
○ 農地利用最適化推進委員：	30人
○ 事務局職員：	4人
○ 市町村行政との連携状況：	なし
内容によって、所管課に情報提供する。	



2 地区の特徴、状況、課題

（市の概要）丹波、丹後、但馬で形成される「三丹地域」の中央部に位置している。JR福知山駅を中心に市街地が形成され、市内を縦貫する由良川の周辺と、その支流部の山間地に集落が点在する。人口は77,300人（国調）、65歳以上の人口比は30.1%である。市では、子育て支援に積極的に取り組んでおり、令和4年の合計特殊出生率が2.02人となり府内で1位、本州で3位となった。

（課題）農村部の高齢化で、農業の担い手が減少し農地の維持だけでなく集落の存在自体が危ぶまれている。行政も、地域振興策に取り組んでいるが地域の「あきらめムード」が強い。農地に対する農業者の数が不足しているなか、全ての農地を維持管理することが困難になっており、限られた人数でどれだけの農地を維持していくのか「守るべき農地」を明確にし、農地以外の利用も含めた地域の将来の土地利用を話し合わなければならない。

3 委員による取組内容

①地区推進協議会

市内に21の地区推進協議会があり、その地区推単位に会場を設けて農業委員、最適化推進委員が相談員として対応していた。

②時間の有効活用

常に相談者があるとは限らないので、空いた時間を総会審査案件の結果や最適化推進委員会の報告、会議等の事前打ち合わせ、委員同士の情報交換の場としても有効活用している。

③会場の統合

委員1人1会場の箇所もあり、相談者がいないときは時間を持て余す傾向が強く時間を切り上げて終了する会場もあった。②のように、委員が集まった機会と空き時間を有効活用している事例もあったことから、1人1会場と他の会場との統合を検討し進めてきた。

相談者の利便性、委員の意向も踏まえて進めた結果、いまだに1人1会場はあるものの、現在は15会場で開催している。

4 成果

①地区推間の連携

これまで、情報交換などは地区推内の委員同士に限られていたが、農地農政相談の会場を統合したことで、他の地区推内の就農者、農地の貸借希望といった情報交換、意見交換（横の連携）が可能となった。

②協議の場として活用

地域計画の策定といった取組みに関して、委員が集まった機会を利用して、所管課との協議、会議の打ち合わせ、資料の整理など、単なる農地農政相談だけでなく様々な取組みの協議の場として今まで以上に活用している。